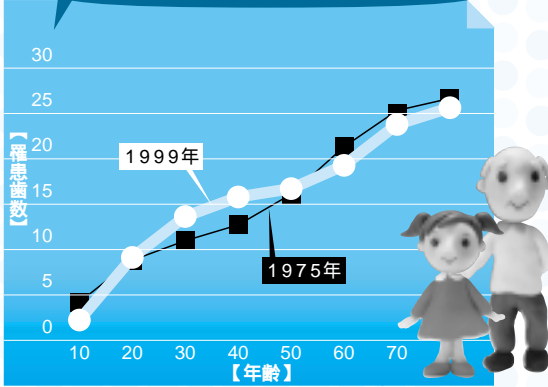
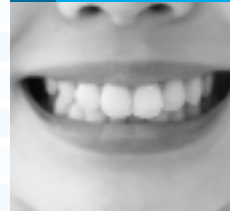


グラフ2 年齢別罹患歯数の推移



世の中のものごとの多くには理屈があり、病気も例外ではありません。医学が発達した現代では多くの病気の原因が明らかとなり、これにもなって効果的な対策が確立されつつあります。口腔の二大疾患についてはいずれも細菌感染が主な原因であることが20年以上前からわかってきています。それならば、これらの病

歯の病気の 予防は可能

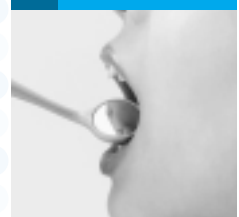


さえ済めば、できるだけ考えたくないと思っておられる方が多いのではないのでしょうか。

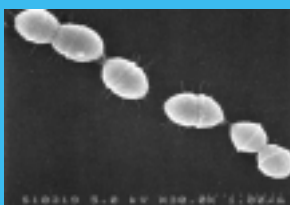
1999年に行われた歯科疾患実態調査の結果は、1975年の結果とほとんど変わりがみられません(グラフ2)。80歳の方の平均残存歯数はわずかに4本程度です。つまり、この20年以上のあいだ行われた歯科医療は国民の口腔の健康を改善することがまったくできなかったといえます。これに対し、現在の歯科医療では疾患の予防に力が注がれつつあります。病気の原因である細菌を科学的に理解、評価することが病気の予防につながる事が明らかになっ

気への対策は、原因となる細菌を抑制すればよいと考えるのが自然でありましょう。このような簡単な理屈が我が国では真剣にかえりみられることなく過ぎてきました。皆さんはどのような時に歯科を受診されているでしょうか。大多数の方は「痛くなった時、歯に穴があった時」と言われます。このように歯科といえば歯を削って詰める、抜けた歯のかわりに義歯を作るところといった印象が一般的ですが、これらはみな病気が発生した結果に対する補修的な処置にすぎず、病気の原因に対してなんらかの働きかけをしなければ病気を治すということにはなりません。治ったと思っていた歯がまた悪くなった経験をお持ちの方が多いわけです。

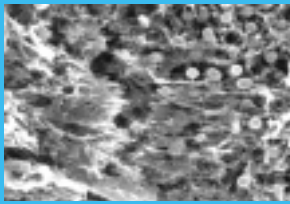
予防に つながる リスク検査の すすめ



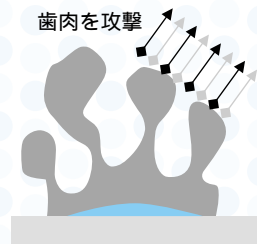
口腔は体の外部からさまざまなものが入りこむ場所で、大変な数の細菌が住みついており、体で最も不潔な部分です。細菌の中には体にとって善い働きをするものもあれば、病気の原因となる細菌も住みついており、歯の病気の原因菌もそのひとつです。病原性の細菌は歯の表面に見えない糊のような膜を形成し慢性的に増殖して病気を発生させます。これを医学的にバイオフィームと呼びますが、この細菌の膜は一旦形成されると歯ブラシでは簡単に除去できないことが判っています。これまで、細菌が口腔内での程度増えているかを正確に評価する方法がありませんでした。これが歯の病気に對する予防法が発達しなかつ



虫歯の原因菌



バイオフィーム



歯周病を起こす
バイオフィーム



むし歯を起こす
バイオフィーム

た理由の一つですが、現在では簡便な検査で、病原性細菌の状況を把握し、人それぞれの病気のかかりやすさ(リスク)を評価することができるようになりました。この検査結果をもとにして病気の発生を予防する方法が確立されつつあります。現在、当院歯科口腔外科ではリスク検査を行っています。検査は唾液を採取するのみの簡単なものです。「歯医者へいつも行っているのに」、「いつも磨いているのに」と日頃お嘆きの方は、一度お受けになってはいかがでしょうか。歯科口腔外科まで気軽にお問い合わせください。なお、口腔の健康維持と全身の健康との関係、影響についてのお話はまた別の機会にお伝えしたいと思います。